

兵庫県のゴミムシダマシ (3)

(兵庫県甲虫相資料・228)

高橋 壽郎*

20. *Dicraeosis bacillus* MARSEUL, 1876

クビカクシゴミムシダマシ

MARSEUL氏が“Kiu-Siu(Ngasaki)”を産地として *Dicraeosis* 属で記載された種である (I.C., p.103, 104, 1876).

中根博士の図説(1950, 1963), 中條, 安藤氏のもの(1985)がある。現在はGEBIEN氏が創設した *Dicraeosis* 属の種として扱われている (1911)。

分布は本州, 四国, 九州, 五島列島である。兵庫県下にも割合いると考えられるが案外と記録は少ない。

産地: 川辺郡猪名川町槻並 (lex., 2, VII, 1978, lex., 4, V, 1979), 川西市見野, 笹部 [仲田, 1970, 1978, 1982], 神戸市烏原 (3exs., 17, VI, 1980, lex., 1, VI, 1983, lex., 18, VI, 1984), 多可郡鳥羽 (lex., 8, V, 1976), 水上郡妙高山 [山本, 高橋, 1962]。

21. *Dicraeosis carinatus shirozui* NAKANE, 1956

オオクビカクシゴミムシダマシ

中根博士が“Tanegasima, Sata, Ohsumi”を産地として *carinatus* の亜種として記載された (Sci. Rep. Saikyuo Univ., 2, 3: A164, 1956)。したがって, 分布は九州と種子島である。原亜種 *D. carinatus* GEBIEN, 1913 は琉球 (奄美諸島, 沖縄諸島, 先島諸島), 台湾に産す。

次の記録があるが, 標本が見られないのでこの亜種であるのかどうかははっきりしない。

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978]。

22. *Parabolistophagus felix* LEWIS, 1894

カプトゴミムシダマシ

LEWIS氏が“Kiushu:Nagasaki”産で *Bolitoxenus* 属として記載された種である (1894)。玉貫光一氏は本種の生活史を札幌産で発表しておられる (Kontyu, 4 巻, 4号, p.217~224, f.3~6, 1930)。林博士は幼虫の図説をしておられる (1966)。中根博士の図説 (1948, 1955, 1963), 河野博士の図説 (1955) がありいずれも *Bolitoxenus* 属になっている。1964年, 宮武睦夫氏はこの類の再検討を

されて, 本種をタイプとして *Parabolistophagus* 属を創設された (Trans. Shikoku Ent. Soc., 8巻, 2号, p.71, 1964)。以後この属の種として扱われている。中條, 安藤氏の図説 (1985) にはこの属になっている。

分布は, 北海道, 本州, 四国, 九州, 対島である。本種の県下の記録は少ないが, 西宮市, 神戸市内でヒトクチャケより採集できており案外と多くいる種なのかもしれない。

産地: 洲本市先山 [宮武, 1973], 川西市若宮 [仲田, 1982], 西宮市船坂 (3exs., 5, VI, 1987, lex., 15, VI, 1987), 神戸市藍那 (lex., 16, VI, 1979), 逢山峡 (5exs., 7, VII, 1987), 水上郡 [山本, 1958], 美方郡扇の山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972]。

23. *Atasthalomorpha dentifrons* LEWIS, 1894

クワガタゴミムシダマシ

LEWIS氏により *Atasthalus* 属の種として “Japan; Hakone, Nikko. Common in boletion beeches in May, ” を産地に記載された (I.C., p.385, p.1.13, f.3, 1894)。湯淺啓温博士は, ♀を日本昆虫図鑑の旧版で図説された (1894)。中根猛彦, 大沢省三両氏は本種の蛹と幼虫を解説されている (Ins. Ecol., 2巻, 4号, p.5, 6, f.s, pl.1, 1947)。また, 中根博士の図説もある (1950)。

その後, 湯淺, 河野両博士は昆虫図鑑の改訂版で *Bolitoxenus* 属の種として図説された (1950)。中根博士も原色で図説された (1955, 1963)。宮武睦夫氏は, この類の再検討論文の中で本種をタイプに *Atasthalomorpha* 属を創設, 以後この属の種として扱われるようになった (I.C., p.79, 1964)。中條, 安藤氏の図説が一番新しい (1985)。

分布は, 北海道, 本州, 四国, 九州であるが, 筆者は県下で未採集である。次の記録がある。

産地: 美方郡扇の山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972]。

24. *Boletoxenus bellicosus* LEWIS, 1894

コブスジツノゴミムシダマシ

LEWIS氏により *Atasthalus* 属で “Miyanoshta, Hakone, Chiuzenji, Nikko and Nishimura. Occurs, like the last species in large baleti, but is apparently

*神戸市兵庫区氷室町1丁目44)

more widely distributed”と書かれて図入りで記載された種である(I.C., p.386, pl.13, f.4, ♂, 1894)。

中根博士の図説(1950), 林博士の幼虫, 蛹の図説(Ins. Ecology, 2巻, 6/7号, p.59, 60, Tab.5, 1948)はともにこの属名になっている。

その後河野博士の図説(1950), 中根博士の図説(1955), 福田氏の幼虫の図説(日本幼虫図鑑, p.477, f.895, 1959), 林博士の幼虫の図説(1966), 宮武氏の解説(1964), 中條・安藤氏の図説(1985)はすべて *Boletoxenus* 属になっている。

北海道, 本州, 四国, 九州, トカラ中之島, 西表島に産する。

本種も筆者は県下から未採集, よって分布状況がよくわからない。

産地: 養父郡氷の山 [高橋, 1975], 美方郡扇の山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975]。

25. *Diaperis lewisi* BATES, 1873

モンキゴミムシダマシ

BATES氏により記載された種である(Ent. Month. Mag., 10:114, 1873)。MARSEUL氏は“Nagasaki”を記録(1876), LEWIS氏は“Nagasaki, Kumamoto, Miyano-shita and Tokio”を記録されている(1894)。

大沢氏は幼虫と蛹を解説された(新昆虫, 2巻5号, p.214~216, 1949)。湯淺, 河野両博士の図説(1950), 福田氏の幼虫の図説(1959), 中根博士の原色の図説(1963), 林博士の幼虫の図説(1966), 中條・安藤氏の図説(1985)など多くの図説がある。REITTER氏がシベリアから記録された *D. rubrofasciatus* も本種のシノニムである(1879)。

分布は, 北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 伊豆諸島(三宅島), 対馬, 朝鮮半島, シベリアであり, 琉球(奄美大島, 先島諸島), 台湾, 香港, インドシナにはミナモモンキゴミムシダマシ *D. l. intersecta* GEBIN, 1913が分布している。

美しい種であり, 県下にも広く分布している。

産地: 三原郡論鶴羽山 [宮武, 1973], 洲本市三熊山 [宮武, 1973], 川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982], 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982], 能勢妙見山(22exs., 30, VII, 1982), 西宮市船坂(5exs., 4, IX, 1987, 25exs., 11, IX, 1987), 神戸市烏原(3exs., 13, VI, 1971), 明石市明石城内(3exs., 26, VI, 1986), 宍粟郡音水(lex., 20, VI, 1959, 2exs., 20, VII, 1969, lex., 11, VI, 1972, 2exs., 16, VII, 1972, lex., 10, VIII, 1975), 氷上郡 [山本, 1958], 出石郡出石町宮内 [高橋, 1963], 豊岡市蘇武岳 [高橋, 1975], 養父郡氷の山(6exs., 2, VIII, 1953), 美方郡扇の山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972]。

26. *Diaperis niponensis* LEWIS, 1887

オオモンキゴミムシダマシ

LEWIS氏が記載した種である(Entom., 20:217, 1887)。その後, “Nikko, Maebara, Junsai and Sapporo. Commonest in Yezo”と記録しておられる。中根博士の図説(1950, 1963), 河野博士の図説(1950), 林博士の幼虫の図説(1966), 中條, 安藤氏の図説(1985)がそれぞれある。

分布は, 北海道, 本州, 四国, 九州である。

前種に似るが大きく巾広く美しい。ただし, 今の所県下では音水渓谷で採集できただけである。

産地: 宍粟郡音水(lex., 25, VI, 1972)。

27. *Scaphidema ornatellum* LEWIS, 1894

フタモンツヤゴミムシダマシ

LEWIS氏が産地に“Oyayama, Kiga and Nikko. Twenty examples.”として記載された種である(I.C., p.396, 397, 1894)。

中根博士の図説(1963), 林博士の幼虫の図説がある(1966)。中條, 安藤両氏の図説もある(1985)。

分布は本州, 四国, 九州である。

県下では余り多くない種のようなのである。

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982], 神戸市烏原(2exs., 1, V, 1977, 3exs., 1, VII, 1984), 相生市三濃山(lex., 28, IV, 1974, lex., 18, V, 1974, 2exs., 1, VI, 1974)。

28. *Scaphidema pictipennis* LEWIS, 1894

ホソモンツヤゴミムシダマシ

LEWIS氏が“Nara. Three specimens”として記載された種である(I.C., p.397, 1894)。KAZAB氏はAmami-Osimaから記録された(Ent. Rev. Japan, 16巻, 2号, p.42, 1964)。中根博士の図説(1963), 中條, 安藤氏のものもある(1985)。

分布は, 本州, 奄美大島である。

割合ははっきりした特徴を有するので同定上の違いはないと考えるが, 県下からは次のものを知るだけでよく分布のわからない種である。

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978]。

29. *Platydemus kuramae* NAKANE, 1963

マルツヤキノコゴミムシダマシ

中根博士によって“Kibune, Iwawaki, Hirayu, Hirakura, Minoo, Hyonoson, Mt. Hiko”産として記載された種である(Fragm. Col. pars., 6:26, 27, 1963)。その後原色でも図説された(1963)。中條, 安藤氏による原色図説もある(1985)。

分布は, 北海道, 本州, 四国, 九州である。兵庫県下

に広くいそうであるが余り記録はない。

産地：川辺郡猪名川町内馬場 [仲田,1982]，川西市笹部 [仲田, 1982]，神戸市鳥原(lex.,25,VI,1980)，相生市三濃山(2exs.,3,V,1974, lex.,18,V,1974)，城崎郡三川山 [高橋, 1975]，養父郡氷の山 [中根, 1863]。

30. *Platydemia lynceum* LEWIS,1894

オオメキノコゴミムシダマシ

LEWIS氏によって“Nantaizan, Yokohama and Junsai. Nine examples”として記載された種である(I.C.,p.395,1894)。中根博士(1963)，中條，安藤氏(1985)のそれぞれ原色図説がある。

分布は，北海道，本州，四国，九州である。

県下では次の記録を知るのみである。

産地：西宮市船坂(2exs.,5,VI,1987)，養父郡氷の山 [2exs.,16,VI,1971,K.Tsuji leg.]

31. *Platydemia marseuli* LEWIS,1894

アオツヤキノコゴミムシダマシ

LEWIS氏により“Nagasaki, Kumamoto, Miyano-shita, Kadzusa and Yokohama”を産地に記載された種である(I.C.,p.393,394,1894)。中根博士の図説があり(1963)，林博士の幼虫の図説もある(1966)。最近では，中條，安藤氏による原色図説もある(1985)。

MARSEUL氏が *P. nigroaeneum* として“Kiu-Siu (Nagasaki)”を記録された(I.C.,p.105,1876)のも本種のことである。

日本では，本州，四国，九州，種子島，奄美大島，石垣島，西表島，父島，国外では台湾，ミャンマ，インドシナ，フィリピン，スマトラ，ジャワに分布している。

兵庫県下での記録はほとんどないが，神戸市内に多くいることから広く分布している種のように思われる。

産地：川西市笹部 [仲田,1978,1982]，神戸市藍那(lex.,4,X,1978)，鳥原(2lexs.,13,VI,1971, lex.,13,VI,1971, 6exs.,27,VI,1971, 7exs.,4,VI,1971, lex.,11,IV,1974, lex.,5,V,1974, lex.,9,VI,1974, lex.,9,V,1978, 10exs.,29,VI,1981, lex.,13,V,1982, 2exs.,11,VI,1982, lex.,13,VI,1982, lex.,21,VI,1982, lex.,24,VI,1982, lex.,26,VI,1982, 2exs.,4,VI,1984)，明石市明石公園(4exs.,15,VI,1975)，三木市口吉川(lex.,14, ,1986)，口吉川笹原(2exs.,26,IX,1986)

32. *Platydemia nigroaeneum* MOTSCHULSKY,1860

クロツヤキノコゴミムシダマシ

MOTSCHULSKY氏がJapan産で記載された(1860)。

LEWIS氏は“Nikko, Miyano-shita, Kiga and Oya-yama. Common”と記録された(1894)。

林博士は本種の蛹を図説されている(新昆虫,5巻,3号,p.9,1952&1966)。中根博士による成虫の原色図説(1963)，中條，安藤氏のものもある(1985)。

分布は，北海道，本州，四国，九州である。

県下には広く分布し多く産する。

産地：三原郡諭鶴羽山 [久松,1974]，川西市笹部 [仲田,1978,1982]，神戸市藍那(2exs.,14,VI,1978,9exs.,7,IX,1978)，下谷上(2exs.,16,I,1980)，鳥原(lex.,23,VI,1972, lex.,12,V,1980, lex.,13,VI,1980, 2exs.,25,VI,1980, lex.,4,VI,1980, lex.,18,V,1962, lex.,13,VI,1982)，美囊郡吉川町奥山(4exs.,17,V,1986)，多可郡三谷(lex.,24,V,1975)，神崎郡大河内町砥ノ峯(lex.,26,VIII,1977)，美方郡扇ノ山 [辻, 1983.,辻, 岸田, 1972.,高橋1976]。

(未完)

他誌交換情報 (1989.1~1989.12)

『串本海中公園 マリンバビリオン』Vol. 18, No.1~12. 1989. 1~12. 串本海中公園センター

『Nature Study』35巻1~12号. 1989. 1~12. 大阪市立自然史博物館

『比婆科学』141~144, 1989. 3~11. 比婆科学教育振興会

『比和科学博物館研究報告』第28号. 1989. 6. 比和町立科学博物館

『兵庫陸水生物』No.33, 34. 1989. 6.10, 11.10. 兵庫陸水生物研究会

『京都植物』第19巻4, 6号. 1989. 1, 8. 京都植物同好会

『奈良植物研究』No.12, 1989. 3. 奈良植物研究会

以上の会誌・研究誌の寄贈を受けています。御利用の向きは，編集部まで御連絡下さい。